

第2報

社会事業史学会 第54回大会のご案内

九州のキリスト教慈善の歴史と 現代に繋がるスピリット

明治期にキリスト教禁令が解かれ、数多くの宣教師が日本にやってきました。

今大会では会員の皆様とともに、九州における宣教師の福祉実践とそれを受け継いできた者たちの歩みを辿り、そのスピリットを今日に伝える実践の意義、さらに未来を展望する場となることを期待しております。

社会事業史学会第54回大会実行委員会

1. テーマ：九州のキリスト教慈善の歴史と現代に繋がるスピリット
2. 日 時：2026年5月8日（金）～10日（日）
3. 会 場：熊本学園大学 [熊本市中央区大江2丁目5番1号] 新1号館みらい



大会日程（1日目）スタディガイドツアー：5月8日（金）

- 13:00～17:30 ハンセン病関係施設ツアー（定員30名）
菊池恵楓園、およびリデル、ライト両女史記念館見学
（熊本学園大学出発 バス移動 熊本学園大学帰着）

大会日程（2日目）：5月9日（土）

（敬称略）

9：30～ 9：45	若手研究者研究交流会 受付（新1号館1階）
9：45～10：30	若手研究者研究交流会（報告・討論）
10：30～10：40	休憩
10：40～12：00	「世代を超えてつながろう」若手・ベテラン交流タイム （ランチ提供時間 11:00～12:00）
12：00～	大会受付開始（新1号館1階）
12：20～12：35	開会式
12：40～13：40	記念講演 小笠原嘉祐「回春病院からの135年」 （社会福祉法人リデルライトホーム理事長）

【自由論題報告】 新1号館 分科会会場

1 論題につき40分（報告30分、質疑応答10分）

※海外から参加者は、1 演題につき50分（報告40分、質疑応答10分）

13：50～14：30	自由論題報告1～2
15：10～15：20	休憩
15：20～16：40	自由論題報告3～4
16：45～17：15	総括討議

【情報交換会】 7号館学生食堂

17：30～19：00

若手研究者研究交流会（5月9日）

本会は若手研究者相互の自立的な研究環境の醸成に資するとともに、歴史研究の人材養成への一助とすることを目的として開催するもので、研究者として若手という意味で年齢は問いません。完成した研究成果を発表する学会発表とは異なり、修士論文や博士論文の構想報告、中間報告、執筆中の論文の経過報告など完成前の研究の報告に対して、参加する若手研究者同士での議論や、先輩の研究者からの助言を通して、質の高い研究の完成を目指そうとするものです。

9：45～10：30 アクティブラーニンググループ1（新1号館1階）

発表者：塩田芙美（奈良女子大学大学院博士後期課程）

コメンテーター：（調整中）

島田正蔵における矯正教育論—「性格の矯正」から「個性に基づく生活訓練」へ—

*若手研究交流会終了後、「世代を超えてつながろう」若手・ベテラン交流タイムを実施

「若手研究者支援担当・社会福祉歴史教育委員会」合同企画

「世代を超えてつながろう」（5月9日）

10:40～12:00 アクティブラーニングルーム1（新1号館1階）

本大会では、「若手交流・社会福祉歴史教育委員会」共同開催で「世代を超えてつながろう」をテーマに、歴史研究をすすめていく上での課題・疑問・情報などについて語りあう企画を設けました。最初に社会福祉歴史教育委員会から話題提供を行い、そのあと委員のメンバーたちとランチをともにしながら、歴史研究を行う上での悩みや課題などについて語りあう場を設けます。世代を超えた交流の場となり、歴史研究の発展につながることに期待したいと思います。皆様のご参加をお待ちしています。（ポスター参照）

（ランチ提供時間 11:00～12:00）スチューデントcommons（新1号館1階）

自由論題報告（5月9日）

■ 発表時間帯の決定

2026年4月27日（月）以降に学会ホームページ上で、発表順等を公表いたします。発表時間帯の指定や変更はできません。

■ 倫理的配慮

発表者は、社会事業史学会研究倫理指針の遵守をお願いいたします。

■ 発表時間

1 論題につき 40 分（報告 30 分、質疑応答 10 分）

※海外からの参加者は、1 論題につき 50 分（報告 40 分、質疑応答 10 分）

■ 当日の配布資料

報告要旨は事前に提出していただいた原稿（様式に合わせた原稿のみ）をPDF化して限定公開しています。図表など別ファイルで提出されたものは要旨集に掲載していません。発表者で追加資料を配布される方は、50部程度（印刷部数の判断はお任せします）を当日持参してください。大会事務局では、印刷・コピー業務には対応できません。

■ 第1分科会 131 教室 司会：二井仁美、竹原幸太

1. 13:50～14:30

二井仁美（奈良女子大学）

「感化教育史再考― 東京市養育院感化部井之頭学校における長期在籍者の諸相 ―」

2. 14:30~15:10

山崎由可里（和歌山大学）

「少年教護院における入所規準および施設の規模と特別な教育に関する研究」

《15:10~15:20 休憩》

3. 15:20~16:00

竹原幸太（東京都立大学）

「不良児処遇をめぐる社会政策と刑事政策の間を繋ぐ／阻む道德基盤の分析—J.ハイトの道德基盤理論に基づく児童・少年保護の協力・連携史研究の試み」

4. 16:00~16:40

末松恵（日本女子大学）

「横浜監獄小田原分監及び幼年保護会における釈放者保護事業—障害のある釈放者への対応に着目して—」

《16:45~17:15 総括》

■第2分科会 132 教室 司会：平将志、横山尊

1. 13:50~14:30

平将志（九州産業大学）

「三井三池の斜陽化と生活困窮者救済—「エネルギー革命期」の熊本県荒尾市を事例として—」

2. 14:30~15:10

栗川 治（同志社大学／日本学術振興会特別研究員 PD）

「キリスト者たちのネットワークと点字図書館創設運動の展開—20世紀前半の視覚障害者、とくに好本督、姉崎惣十郎をめぐる—」

《15:10~15:20 休憩》

3. 15:20~16:00

橋本夏実（文教大学）

「ミゼリコルディア（慈悲の業）の伝承と「女部屋」に関する研究—ド・ロ神父が作った十字会・聖ヨゼフ会の共同体を通して—」

4. 16:00~16:40

横山 尊（広島大学）

「戦後日本における禁酒運動と断酒会運動の連続性と非連続性」

《16:45~17:15 総括》

■第3分科会 133 教室 司会：元村智明、菊池義昭

1. 13:50~14:30

元村智明（東北福祉大学）

「明治38年東北三県凶作と大阪・博愛社の救済活動—機関誌『博愛社月報』を通して—」

2. 14:30~15:10

菅田 理一（鳥取短期大学）

「里子養育のルーツに関する研究—明治中期における仏教系育児事業からの検討—」

《15:10~15:20 休憩》

3. 15:20~16:00

樋田 幸恵（昭和女子大学）、菊池 義昭（淑徳大学長谷川仏教文化研究所）

「大正期の東京府慈善（社会事業）協会と救済委員の実践内容一個々の救済委員の確定と担当地区一」

4. 16:00~16:40

菊池 義昭（淑徳大学長谷川仏教文化研究所）

「日露戦争下での大原孫三郎の受洗と石井十次院長による岡山孤児院の孤児無制限収容宣言」

《16:45~17:15 総括》

■第4分科会 141 教室 司会：野口友紀子、岡部造史

1. 13:50~14:30

野口友紀子（武蔵野大学）

「近代日本における寄附のかたち—自主と強制—」

2. 14:30~15:10

松原浩一郎（天理大学）

「宮崎県方面委員推薦の実態に関する研究—方面委員推薦履歴書からみえること—」

《15:10~15:20 休憩》

3. 15:20~16:00

岡部造史（熊本学園大学）

「19世紀末フランスにおける「慈善の組織化」—パリの福祉事業中央局（OCOB）の事例から—」

4. 16:00~16:40

宮武 正明

「子どもの貧困の戦後史2—セツルメント・貧困の連鎖・学習支援・給付型奨学金—」

《16:45~17:15 総括》

■第5分科会 13A 演習室 司会：岡本周佳、細井勇

1. 13:50~14:30

岡本周佳（静岡福祉大学）

「自由学園東北農村セツルメントの思想的特徴—都市におけるセツルメントと農村隣保事業の比較から—」

2. 14:30~15:10

細井勇（福岡県立大学）

「引揚孤児の救済保護の研究、とくに親族引取りの方法をめぐって—大村子供の家と県営百道松風園の比較—」

《15:10~15:20 休憩》

3. 15:20~16:10

姜永淑（国立群山大学校） 李辰善（群長大学校） 鄭修英（光神大学校）

「親の喪失と国家の役割：朝鮮戦争後の戦争孤児のライフヒストリーから見た社会福祉制度の形成—海外養子縁組の歴史と活動家の役割を中心に—」

《16:15~16:45 総括》

■特別分科会（帝国日本）アクティブラーニンググループ1 司会：大森万理子、魯洙彬

1. 13:50~14:30

田中友佳子（芝浦工業大学）

「帝国日本の児童保護史研究の視角—論点整理と展望—」

2. 14:30~15:10

大石茜（松山大学）

「鎌倉保育園の外地への展開と子どもの移動—近代性と階層性に着目して—」

《15:10~15:20 休憩》

3. 15:20~16:00

小笠原強（専修大学兼任講師）

「日中戦争期、社会事業関係者が見た占領地の社会事業—調査報告書の分析を中心に—」

4. 16:00~16:40

金慶玉（ソウル大学校 日本研究所）

「戦争後の生活—戦争未亡人の生存戦略と母子保健—」

《16:45~17:15 総括》

情報交換会（5月9日）

17:30~19:00：情報交換会 7号館1階 学生食堂

大会日程（3日目）：5月10日(日)

9:00~	受付開始（新1号館1階）
9:00~10:00	総会
10:10~10:45	表彰式、写真撮影
10:50~11:00	共通論題（シンポジウム）趣旨説明
11:00~11:40	共通論題（シンポジウム）課題提起、報告1・2
11:40~12:10	休憩・軽食
12:10~12:50	共通論題（シンポジウム）報告3・4
12:50~13:10	コメント
13:10~13:40	討議
13:40~14:00	閉会式

共通論題報告（シンポジウム）（5月10日）

テーマ：「九州におけるキリスト教関係者の福祉実践の歴史」

第1報告（11:00~11:20）

赤岩 保博 [社会福祉法人南山手会 児童養護施設マリア園 施設長]

「パリ外国宣教会と復活キリシタン」

明治期におけるカトリック宣教、慈善事業はパリ外国宣教会が中心的役割を果たした。当宣教会を精神的、財政的に支援したフランス宣教支援団体（信仰弘布会、児童福祉会）

の存在があった。日本宣教の著名な宣教師としては、プティジャン司教、ド・ロ神父、ヴィリオン神父などがいる。カトリック児童養護を担ったのは潜伏キリシタンからカトリックに復活した多くの信者たちであり、これが戦後の戦災孤児救済につながる。彼らは公的支援等が少ない中、自給自足で子どもたちを養育した。

第2報告（11：20～11：40）

秋山 大路 [リデル、ライト両女史記念館 館長]

「エダ・ハンナ・ライトと子どもたち」

昭和7年にエダ・ハンナ・ライトは、リデルが設立した熊本回春病院2代目院長になったが、日本は戦争へ突入していく。昭和15年、ライトはスパイ容疑にかけられ、特別警察により自宅2階に監禁された。そして、翌年2月に病院は解散させられ、58人のライトの「子ども達」は九州療養所へ強制的に連れ去られた。当時のライトの病院の経営状況やライトの事業に対する考え、思いを病院の報告書である「カレンダー」から考察する。

《昼食休憩》11：40～12：10

第3報告（12：10～12：30）

潮谷 有二 [社会福祉法人慈愛園 理事長]

「モード・パウラスの福祉実践の継承と展開」

本報告では、宣教師モード・パウラスによるキリスト教社会事業を嚆矢とする社会福祉法人慈愛園における100年以上の福祉実践の歴史を通して、少子高齢化をはじめとする今日的状況において社会福祉法人に期待されている社会的役割を踏まえつつ、当法人がキリスト教を基盤とする社会福祉法人として何を継承し、何を発展させていくべきかについて、当法人の現状と課題への対応も視野に入れて示唆することを目的とする。

第4報告（12：30～12：50）

佐竹 要平 [日本社会事業大学通信教育科 准教授]

「引揚女性と佐世保友の会」

「全国友の会」は雑誌『婦人之友』の読者会を起源とし、1929年に佐世保友の会が結成された。空襲で一時衰退するが、戦後の引揚事業で重要な役割を担う。佐世保港には満州等から栄養失調や性被害に苦しむ婦女子が多数到着したため、1946年に同会の協力で婦人相談所を設置。潜在的な患者の発見や、妊娠した女性の送院といった専門的支援を行った。本報告では、佐世保友の会会員による女性支援における役割を検証する。

コメント（12：50～13：10）

コーディネーター/コメンテーター：杉山 博昭 [ノートルダム清心女子大学 教授]

全体討議（13：10～13：40）

参加申込のご案内

*事前申し込みは4月10日(金)で終了しました。

	区分	事前申込	大会当日
大会参加費	名誉会員	無料	
	会員	5,000円	7,000円
	非会員	6,000円	8,000円
	大学院生・学部生 (会員・非会員問わず)	2,000円	3,000円
情報交換会	—	5,000円	不可
昼食軽食	5月10日(日)のみ	800円	不可
スタディガイドツアー	5月8日(金)	3,000円	不可

※「大学院生」および「学部生」は、大会参加受付で学生証の提示が必要です。

■ 参加申込・参加費等の支払い

- ・4月11日(土)以後の申込は、大会当日参加の金額をお支払いいただきます。
- ・現在、当日大会参加費等として決済できます。

大会当日料金お支払先：

<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/apply/JSHSSW>

■ 昼食について

- ・学食は営業しておりません。
- ・学内にローソンがあります。大学正門向かい側にスーパーマーケットがあります。

- 第54回大会報告要旨・論文集につきましては、講演会とシンポジウム資料以外には冊子(紙媒体)は作成せず、PDFでの期間限定の公開とさせていただきます。事前申し込みされた方には、ダウンロードできるサイトをメールでご案内いたします。

会場へのアクセス

*詳細は大学ホームページをご確認ください。

<https://www.kumagaku.ac.jp/daigaku/map/access>



住 所：〒862-8680（地図で探す場合には862-0971）

【熊本都市バス利用】15のりば 約20分

- ◎ 子飼渡瀬線（こかいわたるぜせん）バス停「学園大前」下車
- ◎ 大江城西線（おおえじょうせいせん）バス停「学園大前」下車
- ◎ 渡鹿長嶺線（とろくながみねせん）バス停「大江渡鹿」下車 徒歩約5分
- ◎ 東西線（とうざいせん）バス停「大江渡鹿」下車 徒歩約5分

【産交バス利用】15のりば 約20分

- ◎ 熊本整形外科・託麻原本通經由 約20分 → バス停「大江渡鹿」下車 徒歩約5分
- ◎ 子飼橋・託麻原本通經由 約20分 → バス停「大江渡鹿」下車 徒歩約5分

【JR豊肥本線】水前寺駅北口より徒歩10分

※ 駐車場に限りがありますので、できる限り公共交通機関をご利用下さい。

■ 本大会では宿泊施設の手配は行いません。参加者は各自で宿泊予約してください。

大会組織

社会事業史学会第54回大会実行委員会

- 大会長：林 裕（熊本学園大学 学長）
実行委員長：西崎 緑（熊本学園大学社会福祉学部・学会理事）
事務局長：岡部 造史（熊本学園大学社会福祉学部）
学会役員：金子 光一（東洋大学・学会会長）
宇都宮みのり（愛知県立大学・学会事務局長）
今井 小の実（関西学院大学・学会理事）
杉山 博昭（ノートルダム清心女子大学・学会理事）
元村 智明（東北福祉大学・学会理事 大会担当）
野口 友紀子（武蔵野大学・学会理事）
石川 衣紀（長崎大学・学会理事）
石井 智也（兵庫教育大学・学会監事）
能田 昂（秋田大学・学会監事）

【お問い合わせ先】

■大会に関すること

熊本学園大学 西崎研究室 md-nishizaki@kumagaku.ac.jp

■学会に関すること

愛知県立大学 宇都宮研究室 utu@ews.aichi-pu.ac.jp

若手交流会・社会福祉歴史教育委員会

2026年5月9日 10:40~12:00 (受付10:30)

世代を超えてつながろう

歴史研究をすすめていくための課題・疑問・情報などについて語ろう



社会福祉歴史教育
委員会メンバー

江連 崇

名寄市立大学
社会福祉と宗教の関
係性について探究して
います。永遠に悩める
若手研究者。

渡邊 かおり

愛知県立大学
社会福祉の運動史、
民衆史の研究を
模索中。

菅田 理一

鳥取短期大学
施設史研究数十年。
福祉サービスが利用
児者にどのように
寄り添ってきたのか
を究明。

倉持 史朗

同志社女子大学
感化院・監獄などに
おけるこども支援、
基督教・天理教などの
施設史研究で逃走。

「自分のなかに歴史を読む」

○話題提供 今井小の実 関西学院大学

『社会福祉思想としての母性保護論争』(2005)・『福祉国家の源流をたどる』(2023)・『博愛社の史的 연구』(2023) など、今井会員の研究活動のあゆみから、みなさんの歴史研究を発展させていくためのヒントが得られると思います。社会福祉歴史教育委員会メンバーや学会員同士で研究活動の不安や課題などを乗り越えるための疑問をどんどんぶつけ、歴史研究の世界を盛り上げていきましょう。

1

疑問の解消

どうしたら・・・？
研究を深化させるため
のヒントを得よう

2

繋がる

さまざまな研究テーマ
の歴史研究者同士のつ
ながりを作る

3

共創する

これまでの蓄積を学会
全体で共有し、さらな
る研究成果に繋げよう